

第2回 徳島市新ホール建設候補地検討会議 会議録

日時 平成29年4月17日(月) 午前9時30分～午前11時20分
場所 ホテル千秋閣 7階 鳳の間
出席者 18名(委員7名、事務局ほか)
傍聴者 10名

1 開会

2 事務局紹介

人事異動による事務局紹介

3 資料1の説明

4 議事

(1) 建設候補地の検討について

資料2～4 新ホール建設候補地検討資料

A委員：

何を優先順位の上に持ってくるか。将来にどう結び付けていくのか。

市民としてわくわくする計画としては駅西が面白いが、JR四国と共同歩調がとれないと実現不可能である。

文化センター敷地の不便さは言うまでもなく、旧動物園跡地は公園を含めたひとつの街と考えれば面白いが、大きな道路が周りにない、完全に住宅地の中にある等の制約がある。ホール・駐車場を整備して音楽エリアを作ったとして、使用頻度やその後の可能性を考えたとき気になる。

B委員：

5月17日には市長に意見を言うとのことだが、どの程度の意見を述べるのか。

全会一致で一点に絞り込むのか。メリット・デメリットをいうのであれば、この資料と同じである。最優先課題を見つけて検討会が決定するのか。反対意見があっても多数決で決めるのか。教えてほしい。

事務局：

ご意見をいただくというのが基本で、最終的には徳島市が評価し決定する。

評価についてはいろいろあると思うが、例えばこういうところを重視するとか、コスト的にはこういうところがよいのではないかなど、ご意見をいただきたい。

B委員：

再開発のときの156億円という額について、それ以下に抑えたいのか。

同程度か、それ以上になっては困るということか。

事務局：

金額については、場所によって総事業費は変わってくる。

ただ、ひとつの基準にはなると思う。

会長：

個人的には、優先度がつけられればよいと思っているが、みなさんのご意見が一致しなければ出せない。

個人的な意見というよりは、こういう場を通じて市民の方々に状況を知っていただいて、どういう決断をしていくのか分かるようにしていくことが重要であると思っている。

決断するのは市長であるので、そのプロセスを見守る、あるいは正確な意見に変えていくことである。

いろんな制約条件があるが、クリアできるものなのか、どれをとっても差がないものもいっぱいあり、いずれにしてもやらなければならないものもある。

いわゆる法規制の手続きの難しさは、いろいろあって単純に判断できないが、個人的判断で言うと、周囲の人に対して実際に影響が生じる方向で、規制を緩和するのは難しい。旧動物園跡地の規制緩和は、現実には周りに影響を受ける方がいるという状況から考えると、反対意見が出た場合たいへん難しい。

駅西や他の地域については、影響あるとなっているが、日影については北側公園、市立体育館駐車場への影響だし、都市計画道路については公的な機関との調整で済む話なので、影響のない形でうまくデザインできれば合意は早いのではないかと。

C委員：

いろいろな課題があり、20年前からずっと検討されてきたが、実際にホールを利用して音楽をやってきた仲間に聞くと、旧動物園跡地が一番ホールとしての機能的な条件をクリアできるという意見が圧倒的に多い。

ただ、この20年間でホールに対する見方・考え方は変わってきている。

提言書からはずれるが、文化センター敷地を利用して、まず大ホールを造り、その周辺一体を文化ゾーンとして県と市が協調して段階的に小ホール等を整備していくのはどうか。

駅西についてはポッポ街のイメージが払拭できず、周辺を一体的に再開発するのであれば賛成だが、現在の候補地のところだけでは活性化しないのではないかと。

会長：

文化センター敷地では、大ホールを先行整備し、その他施設については計画的・段階的に整備する、また駅西については周辺との一体的な整備ということか。

D委員：

山中会長に、新ホールのこれまでの小池市長時代からの経緯を教えてください。

会長：

旧動物園跡地にホールを建設しようとする場合の交通問題から関わり始めた。どれくらいの渋滞が起きるのか計算してほしいとのことであった。

1,000台、800台来たら、どういうことが起こるのか。送迎を含めて相当影響が出る。800台出ていくだけで2時間かかる計算になる。

規制を緩和することについては、論理的には、公共的にやむを得ない場合と周辺に影響を与えない場合のどちらかと言われるが、通常両方と言われる。

用途地域全体を変えるとすると4～5年かかる。時間をかければできないことはないがハードルはかなり高い。

A委員：

他地域のホールの資料について、昭和にできたものは価値観が違うので参考にならない。

平成に入ってここ10年くらいを見てみると割と1,200人とか1,500人の大ホール規模で、最近できている大分で98億くらいである。予算的に100億前後で1,200席くらいの形で考えたとき、駅西は外側の形はあまり考えずに建物内

にあるコンサートホール、文化施設として考えれば、いわゆる外観の芸術性とかは考えなくてもいいだろう。

駐車場の問題がいつも議論になるが、周辺にはたくさんあるし、駅やタクシーもある。1, 200人のコンサートがはけても20～30分以内には全員がばらけて、帰りに食事したり、散歩したり利便性がよいと思う。

会長：

街なので、1, 000人規模が出てきても溶け込んでしまうエリアである。

A委員：

タクシー、JR、バスひとつの所に集約できれば、いろんな選択肢が考えられる。

会長：

駅前エリアには1日2万人くらい来ている。ちょっとしたテーマパーク並みなので問題ないのでは。ただ、迎車の問題はある。待つ場所が厄介になる。夜であればそんなに影響ないかもしれないが。文化センターは迎車はどうなるかなという感じはあるが。

我々が考えているホールを、コンパクトに造れば必要な面積は10, 000㎡程度になるようである。㎡単価は75～100万円が相場と聞いている。ホール単体であればそれくらいでできるものと思っている。

副会長：

せっかく造っても利用されない施設では意味がない。

利用者の視点を第一に、どのようなホールが欲しいかを優先的に考えるべき。

公共交通機関のアクセスが近いことは、今後高齢者の増加を考えても、利用者にとって便利なことである。

公演が終わってから、同伴者と食事や喫茶に行くなども楽しみの一つであり、それらの施設に近い場所にホールがあるのがよいと思う。

会場を出るまでに混雑して時間がかかるというのは問題である。

現在の状況では、新ホールは徳島県を象徴するホールとなる。一流アーティストが来てくれるようなホール席数を確保すべき。徳島の人が、地元で一流のアーティストに触れられる場所を作るために、ホールの席数は重要だと思う。香川は2, 000席、愛媛は3, 000席ある。

会長：

(事例を説明) 席数を増やすことは、そんなに面積や建設費に影響を与えない。適度なサイズをどう構成するかが論点である。

現在、1, 800席規模のホールがないので、欲しいという意見は当然だが、それでは小ホールはどうするか。その点は候補地に関わらず、次の段階で検討できると思う。

E委員：

利便性であれば駅西である。

充実したホールを造るなら、面積の点から考えると旧動物園跡地ではないか。郊外へ人の流れを作ってしまうことにならないかが心配である。

中心市街地のことを考えると駅西が理想だが、今回の議題でコスト面の詳細を聞けば、考えが変わるかもしれない。

会長：

建設費面では、文化センター敷地と駅西ではそう変わらないが、用地取得費の問題がある。駅西にするなら、文化センター敷地を売却できればよいが。

D委員：

資料2 比較検討表について質問。

①の施設条件では、駅西と文化センター敷地は線路に近いので、鉄道高架との関係が必須条件である。旧動物園跡地は敷地が広いが進入路が狭い、と一長一短である。

②の土地条件は、建設時の施工の容易性で、文化センター敷地は「十分な杭の打設が必要」とある。他の候補地に記載されていないが、同じ条件だと思う。

③の交通条件では、アクセスの容易さという点において、公演などは夜が多いが、徳島の公共交通機関が終わる時間と公演終了時間はほぼ同じと思われる。よって自家用車などのアクセスであれば、条件はどの候補地も同じと思われる。

④の周辺条件の津波の浸水は、どの土地も大体2m程度。

関係法令についても、どの候補地もほぼ同じである。

4月16日の新聞にホールについての投稿記事が掲載されていたが、関係者がもっと連携しないとホールはできない、という意見であった。これも今回の問題に関わってくる。同じく、新聞投稿に、眉山山頂の建物が閉鎖しており、休憩所がないと書かれていた。今回の議論とは外れているかもしれないが、行政は、建物を造って終わりではなく、いかに上手く使うかを考えていくべき。

会長：

今は大ホールがないため、どうしてもその議論がでてくるが、ホールの機能として真に期待されているのは、周辺の公共施設としての機能である。

ホールの運営にやってきた若い人たちが文化の拠点となり、周辺の若者を巻き込んで色々な活動をする場を作る。

大ホールが本番として使われるのは、年間40回程度であり、普段の活動の場として使われることが重要である。そして、若者たちの活動の場に伝統的な文化活動の人たちが加わっていく、この機能が重要である。そのために、常に安いコストで集まれる場が必要で、各都市もそのような場所を作るために力を入れている。

文化施策はとても重要で、ホールのみを考えるのは間違いである。あらゆる人が集まれる空間として活用する場を作り、文化発信の拠点とすることが大事である。また、その機能を持てば持つほど施設が活用され、結果的に大ホールの稼働も上がっていく。

A委員：

ホール内に、カフェや保育所などを導入するのは可能か。先程の意見で、非営利で多目的ということは確かに必要だが、一方で運営費を考えて収益も必要である。人が集まるところでビジネスをしたいという人もいると思うので、それも条件にいれてもよいのか。

会長：

収益施設の運営をする母体があれば、連携もあり得る。PFIやPPPなどの例もある。

副会長：

小ホールやサービスなどは必要だが、それは必ず同じ場所に無ければいけないのか。

会長：

詳しくはわからないが、それらが大ホールからあまり離れると、大ホールが孤立してしまう。また、大ホール周辺にもホワイエや楽屋など、人の集まる場所が必要なので、別れて造ると無駄になってしまうため一緒にしていると思う。分離する場合、どんな方法があるか勉強が必要である。

A委員：

ホールを縦に積むことはできるか。

会長：

できるが、建築費が高くなる。ただ、小ホールを大ホールの下に造る設計はよく見られる。最近では、ステージの幕類や照明器具などの吊り物を、上へ収納するスペースが高く造られていないと使いものにならないと言われるため、高さを確保するのが大事である。地下を掘って部屋を造れるかどうかである。ゆったりとホールを2つ配置することが望ましいが、旧動物園跡地以外の候補地では難しい。

A委員：

駅西については、JRとどれだけ協議できるかにかかっている。実際にどこまでのことが出来るのかを次回に知りたい。

事務局：

駅西を候補地として挙げることは了解をいただいている。結果によっては踏みこんだ話をするとも伝えている。ただ、具体的な話は出来ていない。

会長：

既存物件の機能保持など、細かな問題が出てくるかもしれないが、その点はまだ不明である。また、JRの土地だけでなく、周辺土地に話が及んだときの交渉の問題も残っている。交渉ができれば非常に可能性がある土地である。

今後、建設費については大まかな見込みの数値を、期間も平成35年度開館を制約条件として考えた場合の議論を行う。

この会議の意見を集約するのは5月中旬であり、次回の会議では事実確認をきちんと行うこととする。どの条件を決め手とするかは難しいところだが、メリットとデメリットをできるだけオープンにし、市民に理解してもらうことが重要である。

その他に要望はないか。

委員：

(なし)

会長：

では、本日の議論は終了する。

事務局：

第2回徳島市新ホール建設候補地検討委員会を終了する。